

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102321
法人名	医療法人有葵会のぼる内科
事業所名	有葵会 のぼる内科 グループホームゆうき
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市多良見町元釜5番地15 (電 話) 0957-44-1765

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 30日	評価確定日	平成 21年 2月 20日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	9/9人	常勤 6/5人, 非常勤 3/4人, 常勤換算 8.17 /8.2	

(2)建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	7階建ての	階 ～ 4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30.000円		その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	210円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	円
	または1日当たり		1050円	

(4)利用者の概要(平成 20年 4月 11日現在)

利用者人数		18名	男性	5名	女性	13名
要介護1		4名		要介護2	6名	
要介護3		5名		要介護4	2名	
要介護5		1名		要支援2	0名	
年齢	平均	83	最低	59歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すばる診療所、江頭歯科、訪問看護ステーションいきりき
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

各お部屋からは海が見え、船が行き来する光景を目にすることができる。青い空と海を眺めながら、職員と入居者がゆっくり会話することも多く、この環境が気に入って入居される方も多い。地域の名産が「いきりきみかん」であり、みかん畑も周囲に多くある。『『ただいま』と安心して帰れる家を『お帰りなさい』と暖かく迎えられる家を皆さんと共につくっていきたいと思います』という理念の通り、職員と入居者は穏やかな日々を過ごしている。入居者、ご家族の要望をお聴きしながら、日常的な買物や図書館へ行く等の外出支援をおこない、相談役(前管理者)と管理者は地域の運動行事へ選手として参加する等、日々の関わりの中で、自然な形で少しずつ地域の中にも溶け込んできている。平成20年4月より、管理者が交代し新体制となった。管理者から職員へ様々な場面で提案がなされ、それを全体で検討し取り組むことで、職員からも気付きや意見が多く出るようになってきた。職員全体の意識向上、職場の活気へとつながってきている。併設診療所の医師や訪問看護師と24時間体制で連携し、病気の早期発見・早期治療にも努めており、より安心した生活を送れる取り組みを続けているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域とのつながりは、以前からおこなっている地域の行事への参加に加え、地域の会合に出席できるようになり、近隣の園児達との交流も図れるようになった。運営推進会議においても、その意見を反映させた家族会の発足、ホームの役割でもある地域への情報発信などの取り組みをおこなっている。さまざまな取組みを職員全体で検討し実践していく中で、職員の気付きや意見を引き出すことができ、職員の意識の向上、職場が活性化などへとつながってきている。 ② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニット毎に職員が自己評価票を記入すると共に、一緒に話し合い評価に取り組んでいる。また、前回の評価結果に基づき改善内容を職員へ提案したことで、職員で話し合いをおこない、改善に向けて日々の業務の中でも取組みがされた。その結果、職員からの気付きや意見が多く出るようになり、職場内の活気、職員の意識の向上、資格取得への意欲などへとつながってきている。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、ご家族、有料老人ホーム(同建物内)の利用者、市役所職員、駐在所警察官や自治会・老人会・区長、民生委員の方々に出席頂き2ヶ月毎に開催している。会議の中で提案があった家族会発足などの意見を反映させた取組みや、アルツハイマー、ビピック病、認知症に関する理解を深める情報など、地域の中のホームの役割である情報発信もおこなっている。外部評価・自己評価の結果についても報告をおこない、サービス評価と推進会議が活かされたものとなっている。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱を設置し、ご家族が来訪された時には積極的に声を掛け、遠方の方へは電話をすることに加え、家族会も発足し、ご家族の意見を積極的に取り入れようと努力している。家族会の中では、テレビで放送された認知症についてのビデオを視聴し、意見交換をおこなうなどの取組みもされている。また、ご家族からいただいた意見を全職員に報告をし、ミーティングなどを活用して、対応策などの検討もされている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者と散歩時などに近隣の方と挨拶を交わしたり、入居者の出身校で開催される地区合同の運動会、地域の花見に参加、近隣の園児との交流をおこなっている。その他、前管理者と管理者が地区のバレーボール大会に参加し、ご家族や地域住民と共に汗を流す事で本音の話を聞けたり、打上げにも参加するなど、地域との関係作りにも取り組んでいる。また、19年6月から自治会に加入し、地域の会合へも出席できるようになるなど、地域とのつながりが深まってきている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、この共同生活の場において皆さんのパートナーであり、皆さんの必要としている支援をさせていただきます」「言葉で表現できなくなった思い・心の声に耳を傾け共感しキャッチしたい」と言う理念は、常にその人らしさを導き出し、地域で一緒に暮らせるようにという想いを込め、開設時に運営者と前管理者が作りあげた。地域密着型サービスの役割を意識しての見直しを現在検討している。	○	管理者は、現在の理念を大切にしつつ、ホームの役割の確認をし、職員の気持ちや足並みを揃える事から始めたいと考えている。また、職員の意見を聞きながら、理念の見つめなおしを段階的におこなって行きたいという言葉も聞かれた。今後、管理者を中心として職員の意見を聞きながら全員で話し合い、地域密着型サービスの役割、地域で暮らししていくことの視点を取り入れ、職員の心の拠所となる理念となることを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	H20.4月から新しい管理者となり、前管理者は相談役として新たな体制作りに取り組んでいる。管理者自ら理念の実践をする事で、以前は業務中心になりがちであった職員も努力をし、入居者の声に耳を傾けるようになってきている。また、朝の申し送りや会議の時など、管理者がケアの中で気付いた点を伝え続けた事で、入居者主体のケアについての意識も高まり、職員自らさまざまな意見を発するようになってきている。	○	ケース検討やミーティングを日曜の勤務者で開催するなど、会議の内容、頻度、開催方法を検討し、その中で理念を伝え、浸透させる事に力を注いでいきたいと、管理者は考えている。理念を見直し、それが浸透していき、現場で実践されていくことで、更なる職員の意識向上につながっていくことが考えられる。入居者主体のケアが充実されていくことを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と散歩時などに近隣の方と挨拶を交わしたり、入居者の出身校で開催される地区合同の運動会、地域の花見に参加、近隣の園児との交流をおこなっている。その他、前管理者と管理者が地区のバレーボール大会に参加し、ご家族や地域住民と共に汗を流す事で本音の話を聞けたり、打上げにも参加するなど、地域との関係作りにも取り組んでいる。また、19年6月から自治会に加入し、地域の会合へも出席できるようになるなど、地域とのつながりが深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれのユニットで、職員が自己評価票を記入すると共に、一緒に話し合い評価に取り組んでいる。また、管理者が、前回の評価結果に基づき改善内容を職員へ提案したことで、職員で話し合いをおこない、改善に向けて日々の業務の中でも取組みがなされてきている。その結果として、職員からの気付きや意見が多く出るようになり、職場内の活気、職員の意識の向上、資格取得への意欲などへとつながってきている。	○	改善策の内容をさらに行動計画として具体化し、管理者の言葉にあったように、改善策を職員と協議し改善への取り組み期待していきたい。また、改善に取り組むことで、更なる職場の活性化、意識の向上、職員一人ひとりの能力が引き出されていくことに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、有料老人ホーム(同建物内)の利用者、市役所職員、駐在所警察官や自治会・老人会・区長、民生委員の方々に出席頂き、2ヶ月毎に開催している。会議の中で提案があった家族会の発足など、意見を反映させた取組みや、アルツハイマー、ピック病、認知症に関する理解を深める情報など、地域の中のホームの役割である情報発信もおこなっている。外部評価・自己評価の結果についても報告をおこない、サービス評価と推進推進会議が活かされたものとなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談役、管理者がホーム便りや運営推進会議録を支所に持参するなど、行き来する機会が増えている。また、制度上の問題や事務的なことなどを電話や窓口に出向き相談をしている。その他、市の高齢介護課へ利用状況、空き状況などの情報提供もおこなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が面会に来訪された時、個々の状況に応じて電話で、暮らしぶりなどの状況を報告している。また、毎月の請求書を送付する際にホーム便りや写真を同封し、ホームでの暮らしぶりを報告している。写真などは、ご家族からも「暮らしぶりが良くわかる」というご意見も多く好評である。健康状態など変化がある時、生活の中で気付いたことなどは、その都度、電話でお知らせし、入居者の情報が共有できるよう取り組んでいる。	○	入居者の生活をご家族と共に支えていくために、現在おこなっている暮らしぶりや健康状態の報告を継続するとともに、入居者の日々の暮らしがご家族へ具体的に伝わるよう、担当の職員が手紙を記載するなどの工夫を今後も検討していくことに期待していきたい。また、それぞれのご家族が知りたいことは異なるため、ご要望に応じた報告の内容や方法などの取り組みにも期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、来訪された時には積極的に声を掛け、遠方の方へは電話をすることに加え、家族会も発足し、ご家族の意見を積極的に取り入れようと努力している。家族会の中では、テレビで放送された認知症についてのビデオを視聴し、意見交換をおこなうなどの取組みもされている。また、ご家族からいただいた意見を全職員に報告をし、ミーティングなどを活用して、対応策などの検討もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と相談し職員の適性を考えた上での異動はおこなうこともあるが、利用者との馴染みの関係が保たれるよう、ユニット間の移動は基本的にはおこなっていない。そのために職員と入居者は顔馴染みの関係になっており、入居者が混乱を起こすこと等もない。管理者は、食事会や休憩時間に職員の話をゆっくり話を聞いたり、休みの希望に極力応じる等、職員のストレス解消に努めている。	○	管理者は、今後も職員の異動や離職が最小限のものになるよう、食事会やお茶会を定期的に関き、職員の話を聞く機会をつくり、精神的なゆとりが維持できるような取組みを続けていく予定である。今後も更に、職員が活き活きと仕事ができる環境になっていくことを期待していきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修に参加出来るよう、職員の希望やレベルに応じて管理者が計画を立て受講させている。その他、自ら考え行動し、課題を持って取組んでいけるよう、4半期毎に介護の質の向上を目指して「入居者の情報がいかに共有できるか」など、実務者研修基礎過程に準ずる課題を職員が設定し、各ユニットにおいて、その課題に対する取組み結果をミーティングで発表するなど独自の取組みもおこなっている。	○	介護の質の向上のために取り組んでいる課題設定と取組みの報告の継続をおこなう予定にしている。また、それぞれの職員が資格取得などの目標を持っているので、管理者が評価を続けながら面接をおこない、それぞれの職員にあった目標設定をし、更にサポートできるような体制づくりも検討されている。入居者のために、認知症に関する知識を共有し、スキルアップを図るための育成計画の作成と実施、評価を今後も期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流を積極的に勧めており、長崎県及び諫早市のグループホーム連絡協議会に加入している。相談役、管理者、職員で協議会主催の研修会へ参加し、伝達研修をおこなっている。職員は相互訪問等職員の直接の交流の機会は少ないが、相談役や管理者は、他ホームに相談するなどネットワークを活用し、サービスの向上に努めている。	○	他ホームでの取り組みを見たい、知りたい、取り入れられるものは取り入れて行きたいなど、職員の学ぼうとする思いが強い。今後、相互訪問や交流の機会を検討し実践していくことで、情報交換、サービスの質向上につなげ、更には、同業者間の横のつながりが強化される事に期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族やケアマネジャーから事前に暮らしぶりなどの情報をいただき、自宅や病院、施設訪問を時間をかけておこない馴染みの関係を築くことから始めている。ご本人と馴染みの物を確認したり、ご家族の方に見学に来て頂くなど、話し合いながら入居の支援をし、ご本人も納得して入居して頂いている。同ビルの有料老人ホームからの入居者は、顔馴染みの関係も築けており、以前の部屋の配置と同じにするなど、生活の継続性を大切にしながら入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争時の体験や昔の歌、料理を教えていただいたり、百円均一で購入してきた昔の家具のミニチュアをみて話が弾むなど、共に過ごしながらも自然な形で回想法が取り入れられている。職員が思い悩んでいる時や疲れているときなど、入居者に話を聴いていただいたり、励まされたり、労いの言葉を頂いたりという場面もあり、共に学び支えあう関係にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご家族へ生活歴や思いを聞き、全入居者について、思いや意向を把握しようと努めている。また、掃除、入浴、外出時などの生活の場面、時には居室でゆっくり1対1で話す機会をつくり、入居者の言葉に耳を傾けて意向を聴きだしている。思いや意向の把握が困難な入居者へは、表情や行動を観察し、一緒に行動を共にするなどして、寄り添いながら思いや意向の把握をするよう努めている。	○	職員の観察力や気付く力がついてきているため、入居者の生活背景や価値観、想いの違いを理解し、入居者の気持ち、不安に寄り添えるようになり、信頼関係が深まってきている。今後もミーティングなどで確認しながら、また、職員自身がさまざまな機会を利用し自己研鑽に努め、更に入居者の思いや意向を把握し、検討されていくことに期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居者の思いや意向を反映させており、意向の表出が困難な方などへも、入居者やご家族との会話の中からどのように暮らしたいのかを把握し、入居者本位の視点で作成されている。ご家族から予め気付きや意見を伺い、また、担当職員は、入居者の把握した思いや気付きなどを計画作成担当者へ伝え、援助や生活上の注意点など医師へ相談している。しかし、入居者の見えている部分のみのアセスメントになる傾向にあるため、日常生活の全てにおいての援助内容が計画にあがらない事もある。	○	介護計画において、入居者の生活全般の(万遍な)アセスメントをおこない、日常生活全般の援助について、目標及び援助の内容の記載をすることで、職員の援助の振り返りと標準化につながる取組みになると考えられる。また、現在、外出も実施されているが、今後、更に入居者の楽しみの拡大と「地域で暮らす」という視点からも、計画へ明確に位置付ける事も検討をしてみたいかがであろうか。入居者、職員がそれぞれに活用できる介護計画になることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員を中心として、入居者全員について日々の観察し、状態の変化や確認が必要な事を毎月のミーティングで話し合いをおこなっている。また、3ヶ月に1回は家族との話し合いや意向の確認もおこなわれているが、全ての入居者においては現状に即した見直しが不十分な部分もある。	○	現状に即した変更を検討するために、定期的なカンファレンスが必要となってくる。管理者からは、ミニカンファレンスを毎週日曜日に開催する事で、タイムリーな変更ができるよう検討していきたいと考えている。その為には、生活全般のアセスメントをおこない、状態の一部ではなく様々な視点から、入居者の全てを把握する事から始める取組みも必要となってくる。今後、生活全般のアセスメントと定期的なカンファレンスの開催で、入居者の現状にあった計画の見直しができるよう期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、ご家族の要望をお聴きしながら、日常的な買物や図書館へ行くなどの外出支援、年に1度は要望をかなえる日として、誕生日にご家族と待ち合わせて入居者と一緒に映画鑑賞をするなど、多種多様の支援をおこなっている。医師や訪問看護と24時間体制で連携し、看取りをおこなっている他、早期発見、治療に努め、入院時にもこまめにお見舞いに伺い入居者、ご家族の要望を確認しながら早期退院に向けての対応をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受療も、入居時にご希望を確認し対応している。その場合も、常に職員が通院介助し、状況によってはご家族が同行される事もある。受診時には健康状態や暮らしぶりについて報告し、ケアについての相談を行なう等信頼関係を築いている。ご家族と通院された時でも、受診結果の報告を受け把握できている。協力医療機関においては、往診や必要によっては他医療機関への紹介などの対応もおこなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、入居者やご家族と看取りについて話し合い、意向を確認した上で同意書を作成している。医師や訪問看護と連携し24時間の医療体制をとっており、重度化した時にも医師の説明を受けながら、支援方法について繰り返し協議をおこない、安心していただけるようにしている。医療的処置や治療の必要性が高い時は、ご家族と話し合い一時退居を検討するなど、入居者、ご家族が何を求めているかを常に考え対応している。	○	看取り介護について、酸素吸入、点滴などの具体的な医療的処置や看取りの方法と入居者、ご家族の細かな意向が確認でき、より判断しやすい同意書となるよう、医師、訪問看護、管理者で協議されることに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さり気なく排尿誘導をおこなう、繰り返しの言動や思い違いへの対応等、自尊心や羞恥心へ配慮した対応を心掛けているが、親しみから出る言葉かけに配慮して欲しい部分が見られている。つつい出してしまう言葉に対して、生活歴や人生のバックグラウンドを把握した上で援助をしていくよう、管理者が呼びかけている。個人情報の保護については全職員理解しており、介護計画書、日々の記録、メモ紙に至る迄、来訪者の目に触れる事のないように適切に管理されている。	○	入居者の言動に対してのケアや誘導の方法など、常に入居者の気持ちやバックグラウンドを理解しながら、それぞれの入居者に合わせた援助ができるよう、ミーティングの場などで話合っていくとともに、今後も尊敬の念を持って、入居者と接していかれるよう取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに必要な声かけや誘導以外は、生活習慣やその日の体調、気分を尊重している。食事、入浴、家事などの生活活動は、健康に支障がない範囲で納得される迄していただいている。“○○が欲しい”“じゃ買いに行きましょうか”と希望を行動に結び付けるなど、自ら動き行動化出来るような場面作りや声かけをする事で、自ら希望を伝える事や行動、意欲につながっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、下ごしらえから片付けまで、入居者の持てる力を発揮していただいている。19年11月から宅配を止め、3食とも献立を考え調理するようになった。入居者と一緒に炊で作った青梗菜などの旬の食材を取入れたり、何を食べたいかお聞きし献立に反映させている。ご本人の嗜好や食べられそうな物、食べやすい大きさや形態を工夫したり、茶碗や湯飲み等は個人毎に準備しており、美味しく、楽しんで食べられるような支援を続けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数をおおまかには決めているが、生活習慣や希望を把握し、個別入浴や側で見守りしながら夕方までに入浴していただくように対応している。希望に応じて隣接施設の大浴場を利用していただいたり、羞恥心に配慮し同性介助にする等、気持ちよく入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	海を眺める、歌を歌う、会話を楽しむ、食べる事が好きな方など楽しみごとを把握している。食器拭き、畑の水撒き、草取り、収穫や買い物等個別に役割を持って頂いているが、職員によっては手を出し過ぎている場面もある。ご家族からの情報や持ち物などから、畑作業や掃除などの本人の出来る事を見出しその気になれるよう、ご家族も一緒になって役割作り・場面作りを行なっている。	○	ベッド上での生活が主な方など、楽しみごとや役割などの把握が充分にできていない入居者がおられる。その方の生活歴、趣味、得意だった事を把握し、ミーティングで職員で話し合いながら本人にやっていただき、入居者の楽しみにつながっていくよう、今後も継続して、職員が意識して取り組まれていかれる事を期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がよく行っていた場所、好きだった場所などの情報を収集し、行きつけの美容室、以前好きだった図書館、住んでいた所や墓参りなどへご家族や職員と一緒に出掛けしている。その他、近隣への買い物、散歩、日光浴、ドライブ等へも積極的に外出している。外出先で入居者同士が支えあう場面もあり、皆で楽しみが共有出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上20時～翌朝7時30分迄施錠しているが、通常、職員が作業する場所や立つ位置を工夫したり、声を掛け合いながら安全を確認している。プライバシー侵害、音による行動制限に配慮しながら、玄関・居室入り口のチャイムが鳴る事で見守りの補助を行ない行動の背景を確認している。入居者が1階に降りられた際は、同じ建物の事務所やコンビニエンスストア・診療所・近隣の会社にも見守りや連絡の協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、夜間の災害発生を想定した職員のための訓練、入居者を含めた訓練を実施している。夜間の職員が少ない時間帯に地域の方に協力を依頼していると共に施設、ユニット間の協力・連携体制を取っている。屋上の水タンク、懐中電灯、カセットコンロ、割り箸、コップ、皿など、非常災害時の備品を準備している。	○	避難訓練実施の際に地域の方や家族の方にも参加して頂き、応援体制の強化を整備していくと共に、備蓄物品についても必要な物品や必要量など、災害時に対応できるように検討されることを期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを保つ為にすばる診療所の献立を参考にし、入居者の嗜好、食べやすさ、アレルギーなどを把握した上で提供している。定期的な体重測定や血液検査の結果、医師より助言も頂いており、食事や水分摂取量の記録も残している。希望や状態に応じておにぎりにする、形態を変える、苦手なものはその場で変更するなどの対応をしている。たんぱく質を補う為に毎朝豆乳を飲む、摂取量が少ない場合は補助食品を活用するなどの工夫をしている。	○	バランスの取れた食事が提供できるよう、入居者が食べたい物や好み、傾向、食べやすさなどを確認し、美味しく食べられるように炊で取れた旬の食材などを利用し、視覚や嗅覚からの刺激も加え、食べたいと思えるような工夫をしていきたいと考えている。今後も、職員、管理栄養士、医師と相談しながら、個別に応じた食事を提供できることを期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう、雛人形や七夕などその時々にあったものを飾ったり、散歩に行った際に摘んできた野草を飾る等の工夫をしている。また、快適に過ごす事ができるよう、観葉植物を置いたり、カーテンの開け閉めで光の強さを調整しているほか、相談役の手作りの配膳台を活用することで、より広い空間が保たれている。	○	玄関部のスペースにおいて、漂白剤や洗剤、タバコ、ライターなどの危険物が雑然と放置されている。入居者や訪問に来た子供などの異食につながる危険性があり、避難経路の確保するためにも、扉つきの棚に収納(必要によっては施錠)するなど、対応の検討が必要である。リビングの共有スペースは、難聴の入居者がいる事から、テレビの音量が大き過ぎる傾向にあるので、今後も音量や時間帯、座る場所、必要であれば音楽に変えるなどの対応を検討される事に期待していきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が安心して生活できるように、居室に今まで使っていた敷物を持参していただき、それを部屋に敷いたり、入居者自身が書いた「書」を飾っている。また大切にしていた人形を飾る等の工夫がなされている。また、テーブル、椅子、箆箆や写真、仏壇、位牌等入居者・ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる居室になるよう配慮されている。		